

## ～2023-24年度主題～



国際会長 ウルリック・ラウリドセン  
 “Let Your Light Shine”  
 アジア太平洋地域会長 利根川恵子（川越C）  
 “Be the light for change”  
 東日本区理事 山田公平（宇都宮C）  
 “Instill Confidence in our Youth”  
 湘南・沖縄部長 黒川 勝  
 “初心に帰り、新たな船出を踏み出そう”  
 クラブ会長 今城高之  
 “Enjoyment first and foremost !”  
 （楽しく、何はさておき楽しく！）

## 2023-24年度 クラブ役員

会長 今城高之  
 直前会長 辻 剛  
 副会長 鈴木茂  
 書記 岡田美和  
 会計 横田孝久

## 今月の聖句

「喜びをもって生き 長生きして幸いを見ようと望む者は 舌を悪から唇を偽りの言葉から遠ざけ 悪を避け、善を行い平和を尋ね求め、追い求めよ。主は、従う人に目を注ぎ助けを求める叫びに耳を傾けてくださる。」

詩篇34・13-16

## 10月本例会次第

日時 10月27日（金）

17:00～19:00

場所 かけはし都筑

司会：今城宏子さん

受付・記録：鈴木茂さん

～プログラム～

- 1.開会点鐘
- 2.ワイズソング・信条の唱和
- 3.会長挨拶
- 4.ゲスト・ビジター紹介
- 5.卓話：相賀先生  
宗教改革者マルティン・ルター  
～その世界史的意義とドイツ  
讃美歌の誕生～

6.各種報告・連絡等

7.YMCA報告

8.Happy Birthday

今城宏子さん（10/3）

9. アピール・スマイル

10.閉会点鐘

※閉会后近くで会食を計画しています。ご参加ください。

## 《巻頭メッセージ》

横田 孝久（クラブ会計）

**今**夏の猛暑・酷暑で我が老体は完全に悲鳴を発しています。考えてみれば小生も80年の時を生きてきたのですが、振り返れば全くあつと言う間の80年だった気がします。その時々には長い長いと悩んだりもしましたが、勝手なもので過ぎ去れば何のことはないスピードでした。

老いつつ「これから」なんて言ってもどうなのでしょうかね。言葉が見つかりません。老いるということは、あまり愉快なことではありません。若さに価値を置く現代社会ではなおさらのことです。最近でこそ、会社などでは定年延長など、それなりに高齢化社会への対応ありますが、やはり、若い力が必要で、経営者や幹部などの若返りが進んでいます。我々はもう用なしでしょうか。肉体にしても、精神にしても老いは避けて通れないだけに、正直なところ憂鬱になります。人によっては人生の終わりが近づくにつれ、まだやり残したことに気づく人もいます。「老いるとは、未完の業を受容するプロセスである。」と言う言葉があります。人生は、すべてこれによしとは言えないのが現実で、あれもこれも思っているうちに人生の時間が尽きてしまいます。

そこで、思い出した聖書箇所があります。詩編71編9節、「老いの日にも見放さず、わたしに力が尽きても捨て去らないでください。」です。残り少ない時間をあきらめに譲らなければならぬとの思いを、作者は多分それを「よし」とせず、老いは死の近づきにはちがいないが、なお残りの時を豊かに生きたいと感じたのでしょう。そのためには、これまでのすべてが「よし」とは言えない人生であっても、その人生をそのままにそっくり引き受けてくれる方を知っているかないかで、老い方に違いが生まれます。この詩は残りの人生を引き受けてくださる方がいることを知って、今日という老いの日を生きようとしているのだと思った幸いです。

そして、残された人生を何とか変えたいという思いもありますが、マタイの福音書9章の17節に「新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れるものだ」とあります。

新酒は醗酵力が強いので、古い皮袋は破れてしまいます。同じように新しい考え方があっても、相変わらずの価値観や生活スタイルに執着していると、いつまで経っても新しい展開はなく、物事を新しくするときには弾力性が要ります。

ところが我々はどうかすると、古い皮袋に新しいぶどう酒を入れようとしています。

今までぶどう酒が入っていた古い皮袋は如何にも安全そうにみえますが、弾力性を失っているので、うまくぶどう酒は熟成しません。新しい考え方があっても、枠を壊すことに躊躇していると、何一つ新しくなりません。新しい事に挑戦することは一種の冒険です。冒険するには考え方や行動に弾力性がなければなりません。また、結果がどうであれ、その結果を受け入れる勇気（柔軟性）が必要です。

イエス様が「最後の晩餐」で言われた「私のからだは血」を感謝しつつ、今宵もワインが我が身の傍で微笑んでいます。（完）



## 《例会報告》

9月度本例会

坂口 直樹 記

日時：2023年9月22日（金）17:00-19:00

場所：かけはし都筑

出席者：今城H・T、鈴木S・K、鴨下、横田、岡田、  
大野、坂口、（Zoom参加）辻Ta・Tu

ゲスト・ビジター：石川 晴美さん、リリアさん（横浜YMCA）

ロバート・エスキルドセンさん（ACN）

司会：岡田 美和 受付・記録：坂口 直樹

=次第=

1.開会点鐘に続き、ワイズソング・ワイズの信条を一同で唱和した。

2.今月の聖句と祈祷：相賀チャプレン欠席のため、鈴木ワ  
イズから聖句の代読がなされ祈祷を行った。

## 3. 会長挨拶

8月からコロナが再蔓延している。会長も含め、当会メンバーも多数（都合6名）が罹患した。災害とコロナは忘れたころにやってくるので日常の予防を怠らないでほしい。

## 4.活動予定

10月に計画していた移動例会は、参加予定者が少なく事務例会にて中止を決定した。このため10月例会は通常の例会として開催する。

11月18日（土）のコンサートでの役割分担は10月事務例会・例会で改めて依頼する予定。

12月例会は通常の例会を第4金曜に実施の予定。横浜YMCAクリスマス会への参加は個人の自由。

10月5日(木)赤い羽根街頭募金をセンター南駅前で開催します。今のところ、今城T、岡田、坂口、鈴木S、横田参加予定。

## 5. ゲスト・ビジター紹介 会長

ビジター ロブさん（エスキルドセン、ロバート）

卓話者 石川晴美さん、リリアさん（ウクライナからの避難民/横浜YMCA職員）

## 6. 卓話「横浜YMCAのウクライナ支援活動」

卓話者：石川晴美さん、リリアさん

横浜YMCAが進めているウクライナ避難民への支援活動の状況をお聞きし現状の理解を深めた。

リリアさんからロシアのウクライナ侵攻は2014年のクリミア侵攻から始まった経緯を説明していただいた。（ロブさんに、リリアさんの説明を日本語翻訳していただいた。）

・ウクライナから横浜に避難している避難民は、69組115名、内、17名は小中学生。

参考サイト：<https://www.yokohamaymca.org/event/20221021/>

## 《ポイント》

・横浜市と連携した支援活動を展開。ウクライナ支援募金の現地への送金、避難民への生活支援金の配賦等を実施。

・ウクライナカフェと称する避難民の交流の場の提供。保育士による子供の見守り活動、ユースをエンパワーする活動を展開。

・市営住宅設営支援、生活支援金の配布等を実施。

・緑区十日市場地域ケアプラザにおける「みどりクラブ」の開催。主に緑区に在住のウクライナ避難民の皆さんの気楽に集まる場、おしゃべりの場、手作りや料理等を通じた文化交流の場。

・ユースプロジェクトとしてサマーキャンプやグループワークの開催。

・（リリアさん）2014年のクリミア侵攻から始まった戦争の歴史。ウクライナ語とロシア語の二つの言語民族の共存。独立国家の意味の重要性、その代償としての血と命。

## 《メンバーから質疑》

・今年もみどりクラブを通して手編みマフラーの贈呈を計画している。

・You & Iコンサートへのウクライナ避難民の招待や、一緒に手編み等カルチャーの交換といった提案がなされ今後検討していただけることとなった。

## 7. YMCA報告 鴨下館長

・11月3日の北Y祭りの案内並びに前日・当日のボランティアの依頼があった。

・You & Iコンサートプロモーションしている。当日のYMCAメンバーの支援体制は昨年に増して大勢で支援の予定。

・メネット会からの北Yへの絵本贈呈式が行われる。会長参加予定。

・9月23日開催予定の横浜YMCAフェスタの案内。北Y開催の「うたごえ広場」の案内。

## 8. 閉会点鐘 会長

※閉会后、センター南中華レストラン「芳香園」にて会食懇親会。



“To acknowledge the duty that accompanies every rights”



10月に入り、ようやく秋の訪れを感じる季節となりました。横浜YMCAでは、9月30日（土）から10月1日（日）に三浦YMCAグローバル・エコ・ビレッジを会場に、「大人の休日アウトドアキャンプ」を実施しました。神奈川県下のYMCAから、11名の参加者が集まり、ボランティアやスタッフと一緒にキャンプを楽しみました。横浜北YMCAからは、参加者1名と、引率スタッフの飯野さんが参加をしました。キャンプの初日は、天候にも恵まれ、青空のもと海に出て、ヨット、カヤック、SUP、スノーケリングに挑戦し、スノーケリングでは、間近に魚を見ることができました。また、夜は野外水事場でバーベキューを行い、夜の10時頃まで、仲間と語り合いました。2日目は、ソレイユの丘までハイキングをし、観覧車やパスライダーなどのアクティビティに挑戦しました。写真に写る皆様

の表情からキャンプの様子が分かります。大人のキャンプは昨年に続き、今回が2回目となります。管理が行き届いた三浦YMCAの施設を利用し、キャンプを通して、三浦の自然を理解すること、新たな技能を身に着けること、多様性を尊重すること、仲間と交流を深めること、リーダーやサポーターになれること、キャンプを楽しむことなどを体験することができます。

ある調査によると、65歳から89歳の方の41%の方は年に2回から4回は旅行に行き、26%の方は年に1回、16%の方が年5回以上旅行に行っているようです。是非、来年は、旅行のひとつに加えていただき、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

季節の変わり目ですが、ご自愛ください。



## TKB活動報告

※TKB : Tsuzuki Kawaii Bachans

9月のTKBでは、東日本大震災被災地に送る10月のバースデーカードを作りました。10月の絵柄はハロウィンです。つばめの杜保育所のちびっこたちはハロウィンが分かるでしょうが、みやま荘のご高齢者の方々には、このカボチャのお化けがどのように見えるのでしょうか。きっと、介護の方々が説明して下さることと期待してお送りします。

さて、秋の深まりを感じる中、TKBメンバーの大野君枝さんとそのお友達が、ウクライナ避難民の方々にプレゼントするマフラーや帽子を手編みで作って下さっています。10月のTKBでは、カード作りの他に、これら手編み作品にタグをつけたり包装したり、11月6日に予定している作品贈呈にむけての準備を行うことになるでしょう。寒い冬も間近に迫っており、ウクライナの方々が手編みのマフラーや帽子の温かさから、私達の友情を感じ取

て下さることを願ってやみません。手編み作品のために毛糸を献品して下さった田園江田教会の方々にお礼申し上げます。





《トピックス》 去る10月5日、恒例となった赤い羽根共同募金活動に当クラブの鈴木さん、岡田さん、横田さん、坂口さんと私の5名で参加しました。これは日頃からお世話になっている都筑区社会福祉協議会の呼びかけに答えたもので、午前11時より正午まで、センター南駅前前で声を張り上げました。その昔であれば、この季節にはほとんどの人が胸に赤い羽根をつけていたものですが、昨今、赤い羽根は余り人気がないようです。通行する人々の内、募金箱にお金を投じて下さる方は、50人に1人、あるいはそれ以下かも知れません。この現象は、決して「人情が薄れた」といったことではなく、ひと昔に比べ、募金の機会が大変多くなり、人々は、募金の使われ方などを慎重に吟味して、好みの募金先に寄付する習慣がついたからだと思います。それでも、我々が張り上げる声に引かれて、お財布を開けながら近寄って来られる方がおられ、そんな方々には一段と声を張り上げ「ありがとうございます

ます！」と叫びます。たった1時間ながら、声が枯れ果て、仕方なしに帰り際には、真昼にもかかわらず、生を一杯ということになってしまいました。



《メネット会にご協力》 ご存じでない方にご説明しますと、ワイズメンズクラブには「メネット会」なる集まりがあります。これは、ワイズメンズクラブメンバーのパートナーで構成されるグループで、主に、ワイズメンをサポートする活動をしています。独自のプログラムもあります。そのうちの一つに、絵本を東日本区内の各地のYMCAに集う子どもたちに贈呈するプログラムがあります。この度、横浜北YMCAが運営する、菊名小学校の放課後キッズクラブに絵本が贈呈されることとなり、当クラブが贈呈式のお役目を頂き、先般、クラブ正副会長と担当主事（北YMCA鴨下館長）とで、贈呈式に臨みました。百数十名のキッズクラブメンバーを代表して写真の子どもたちが絵本を受け取ってくれました。



## 《会長のひと言》

最近目にした本は以下のように始まりました。「温暖化対策として、あなたは、なにかしているだろうか。レジ袋削減のために、エコバッグを買った？ ペットボトル入り飲料を買わないようにマイボトルを持ち歩いている？ クルマをハイブリッドにした？ はっきり言おう。その善意だけなら無意味に終わる。それどころか、その善意は有害でさえある。」

人類の経済活動が地球に与えた影響が余りにも大きいことから、あるノーベル賞学者が、地質学的観点から地球は新たな年代突入したとして、「人新世（ひとしんせい）」（Anthropocene）と名付けたといいます。産業革命以降、人間は化石燃料を大量に使い、膨大な二酸化炭素を排出している。本来、人間が生活するに適した温度を保って来た二酸化炭素が必要以上に増え続け、現在の値は400万年ぶりだと云います。400万年前

の地球は、平均気温が今より2-3度高く、極点の氷は融解して、海面は最低でも6m、場所によっては10-20m高かったといえます。人新世の気候変動はその時の状態に地球を近づけており、人類が築いてきた文明は存続の危機に瀕していると学者は警告を発しています。世界の潮流として、人類の最優先関心事と思われた温暖化対策は、各地での戦火や感染症の蔓延で、その座から滑り落ちてしまいました。

私のような高齢者にとっては、命ある間に地球が最悪の状態に到達するとは考えられませんが、次の世代の人々、今のユースたち、更にはその後の世代の人たちがどんな環境に遭遇するのか、人類が一つになって、最善の策を取らないと取り返しのつかないことになってしまうのではと憂慮するのは私だけではないと思います。

(完)



## 《速報》

## 第27回横浜YMCAインターナショナルチャリティラン

今城 高之 記

コロナの感染拡大により、リアルチャリランが暫く休止を余儀なくされ、昨年ようやく、若干規模を絞ってリアル開催となりました。本年も、10月14日(土)、絶好の好天に恵まれて、昨年と同等規模ではありましたが、チャリランの聖地、横浜みなとみらいにある「臨港パーク」でリアル開催されました。過去の100チームを上回る規模には至らなかったものの、今回は60チームが参加して、3つのカテゴ

リーによるランが行われました。過去は、昼食を挟んで午後までランが続いたのが、今回は昼で終了と少し寂しい思いもありましたが、参加者の皆さんの頑張りが熱気となって裏方のボランティアにもひびひと伝わるイベントでした。実施の詳細については、追って事務局より公式の報告がなされますので、ここでは、イベントの雰囲気写真を中心にお伝えします。



ちびっこも大人も、障がいのある方々も同じように競争に参加しました。途中でベソをかいていたちびっこもいましたが、参加ランナーの皆さんは順位に関係なく楽しんでおられたと思います。



会場の臨港パークに面した港に、練習船「日本丸」がエレガントな姿を現し目を楽ませてくれました。更なる奥の大棧橋には、コロナ感染で名を馳せた世界一周豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス号」も停泊しており、そのせいかどうか定かではありませんが、臨港パークにはあまり見かけない外国人のツアー客が散見されました。



当日集まった湘南・沖縄部所属各クラブのワイズの面々と担当主事の皆さんです。この中で、実際にランナーとして参加したのは湘南・沖縄部の黒川部長ただ一人。お疲れ様でした！



ひょっとすると、これがメインイベント？終了後、ワイズの有志は折から赤レンガ倉庫で行われていた「オクトーフェスト」を訪ねましたが、超満員で断念。収まらず、中華街に足を延ばし、かねてより行き付けの名店「心龍」で料理とビール、老酒などを楽しみました。真昼間というのに！



《例会報告》

10月度事務例会

岡田 美和 (クラブ書記)

日時：2023年10月11日（火）17:00~19:00

会場：夢Café

司会：今城高之会長 報告：岡田美和書記

出席者：今城H・T、大野、岡田、鴨下、鈴木K・S、横田（8名）

1. 点鐘および黙祷をもって開会
2. 会長が挨拶に立ち、10月の移動例会中止になった経緯等について説明。健康を害しているメンバーが多いことが案じられ、特に11月のコンサートに向け、皆さん万全で望んで頂きたい旨訴えた。
3. 審議・検討事項
  - 1) You & Iコンサート（1月18日（土））
    - ①周知活動の進捗状況について  
チラシ配布状況、それぞれの活動の報告を行う。  
・神奈川新聞には事前に案内が掲載される。  
・イツコムが当日取材に来る予定。
    - ②当日の役割分担表（案）を検討した。
    - ③ウクライナ避難民の方々は招待券にて招待する。
    - ④当日の募金活動はYMCAとの共同で行う。
    - ⑤コンサート終了後には反省会を行う。
  - 2) 第27回国際チャリティーラン  
10月14日(土) 開催のチャリランには、クラブより今城T、坂口、鈴木S、横田の4人がボランティア参加の予定。なお、当クラブがスポンサーとなり、北YMCAのサッカー教室の5名がランに参加。
  - 3) 11/3(金) の北YMCAまつり（バザー）  
当クラブの参加協力者は、大野、岡田、坂口、鈴木K・S、横田の予定。

- 4) ウクライナ支援の編み物マフラーの贈呈について  
11/6（月）十日市場ケアプラザにてウクライナの方々（みどりクラブ）へ贈呈する。  
出席者は大野、今城H・T  
編み物マフラーの贈呈を機に、今後はウクライナの方々と交流、協働もしていきたい。
4. 今後の予定について
  - 1) 10/14(土) 第27回横浜YMCA国際チャリティーラン
  - 2) 10/18（水）13:30~TKB @夢Café  
誕生日カード・手編みマフラーシール付作業
  - 3) 10/27（金）17:00~ 10月本例会 @かけはし都筑  
相賀先生からルターの宗教改革についてのお話を伺い、ルターが作った讃美歌を歌う
  - 4) 11/3（金）10:00~14:00  
北YMCAまつり（バザー）
  - 5) 11/25（土）14:00~16:00  
湘南・沖縄部大会 @湘南とつかYMCA  
・講演「ウクライナおよびウクライナ避難民への支援活動」講師 コヴァリエフスカ ナタリアさん  
(横浜市国際局国際協力部)  
・アトラクション 小ミュージカル
5. アピール・報告  
10/5（木）午前、センター南駅にて赤い羽根街頭募金活動に参加。  
参加者 今城H・T、岡田、坂口、鈴木S、横田
6. 黙祷・閉会点鐘をもって閉会  
閉会後は最寄りの中華レストランにて会食。

(9月実績)

例会出席者	14名	在籍会員数	15名
メンバー	11名	月間出席者	11名
ビジター	0名	メーキャップ	1名
ゲスト	3名	月間出席率	80.0%
各種記録	当月実績	年度累計	
スマイル	0円	16,153円	



●●編集後記●●

▼今月に計画されていた年中行事の移動例会が残念ながら流れてしまいました。参加者が想定を大幅に下回ったからです。▼今一つの年中行事であるコンサートはひと月後に迫っており、過去一〇回の実績があるとはいえず、何かとせわしい思いをしています。昨年以上の来場者獲得を目標に頑張っています。読者の皆様も、是非お誘い合わせてご来場ください。▼健康を害している仲間が少なからずいて気をもんでいます。メンバー全員が一堂に会することができるようにはいたしません。神様のお癒しがありますように。(編集子)